2023
夏
SUMMER
Vol. 020

第20号

Pearlland Hospital

パール通信

医療法人　猪鹿倉会　パールランド病院

作業療法科で患者さんと一緒に仕上げた作品です。今回はひまわりや金魚、涼しげな色合いのコットンボールで夏らしい飾り作りをしました。患者さんには、制作しながら季節を感じ、思い出を語りながら手作業を楽しんでいただきます。グループ療法では、自分たちで手作りした紙皿やコースターにお茶菓子をのせて贅沢なティータイムを過ごしています。

通信のご案内

女性が活躍しています！

■パールランド病院開設35周年を迎えて
■認知症看護35年の変化
■Dr.によるミニコラム ：「忘れられないエピソード～一枚の写真」
■Nrs.によるミニコラム ：「寄り添う」とは…
■インドネシアからの新しい仲間紹介
■部署紹介（リハビリテーション部・作業療法科）

パールランド病院 開設35周年を迎えて

パールランド病院　院長　猪鹿倉　忠彦

1988年3月に初代院長の猪鹿倉武が「老人医療の充実と向上」を目指し、ここ犬迫の地に開設して、早くも35年を迎えました。これも、スタッフの皆様はもちろん、地域での関わりによって支えられてまいりましたことに、あらためて感謝申し上げます。

パールランドという命名は、真珠は年輪を刻みながら出来上がっていきますが、この真珠をご高齢の方の様々な人性の過程のシンボルとしてなぞらえたことに由来します。

開設当初から400床の老人医療専門の病院として、全国でも有数の規模を誇りますが、2013年12月から認知症疾患医療センターとして、認知症に特化した診療体制や機能を強化しております。一方では、女性が多い職場でもあることから、女性活躍推進法による「えるぼし」認定を受けております。また、今年度から外国人スタッフの受け入れを行うなど、医療情勢や社会構造の変化を踏まえた時代の流れにも対応しております。

35年の間には、8.6水害に大型台風と自然災害が続きましたが、昨今のコロナ禍は未曽有の大きな影響を被りました。これらの経験を生かしながら、将来のご高齢の方への医療提供体制を見据え、病棟の建て替えや機材の更新なども含め企画してまいります。

以上のことを背景に、当院の理念を今一度振り返り、ご高齢の方、そして認知症の方が安らぎを得られるケアを第一に、これからもスタッフ一同取り組んでまいりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

パールランド病院理念

一.　命の尊さと人間愛を持って接し、療養中であってもやすらぎのある医療を目指します
二.　患者さんの立場に立った医療の充実と質の向上を目指します
三.　開かれた病院として地域とのふれあいを大切にいたします

認知症看護35年の変化

パールランド病院　看護部 看護部長　吉松　昌代

当院は、1988年3月に開院し35年を迎え、高齢化人口の増加と地域性から後方支援病院としての役割が大きく、2013年12月からは認知症疾患医療センターとして地域の認知症医療看護の一環を担うようになっています。

私は2007年4月より看護部長職にありますが、開院当時を振り返って感じることは、認知症看護の変化です。

当時は、患者さんの行動を制限しても安全を第一に優先することが適切であるような風潮が世間的にありました。当院でも安全面を重視し、患者さんの身体拘束を行うこともあり、職員はジレンマを抱えた日々を送っていたと思います。しかし、徐々に拘束に依らない看護の模索が始まり、生命管理の危機がある場合を除き、1990年後半から当院では身体拘束は行っておりません。

この35年、認知症看護の世界ではユマニチュードやコンフォートケアなど様々な新しい考え、ケアが提唱され、介護福祉士、認知症ケア専門士をはじめとした多様な職種や資格も増設されました。認知症普及活動を実施できるように当院職員も積極的に資格取得に取り組んでおり、さらに患者さんのケアに活かせるようになったと思っています。

認知症の方やご家族と職員が共にできることは何かを考えながら協力していける環境を築き、患者さんの「今」を大切にするために必要なことを現在も探り続けています。

これまでこの地で看護を続けられていることに感謝し、これからも時代の変化に遅れることなく進化していけるように日々努力を重ねていきたいと思います。

Dr.による

ミニコラム

忘れられないエピソード～一枚の写真

パールランド病院　理事　副院長　新牧　一良

それは、当院が開院してからしばらく経った、おそらく1990～1991年頃の出来事でした。

高齢の女性が入院されました。その方は、脳出血後遺症で失語症があり、寝たきりの状態でした。会話こそ出来ませんでしたが、いつもニコニコされ素敵な笑顔が印象的な女性でした。ところがある日、脳出血の再発にて急変され、帰らぬ人になられました。

後日、娘さんが病状の経過を聞きに来院され、その際に師長から娘さんに一枚の写真が手渡されました。そこに写っていたのは、その患者さんと優しそうなご主人が笑みを浮かべ、仲睦まじく寄り添ったお二人の姿でした。

もちろん私はその写真の存在を知る由もなく、娘さんもご存じなかったようで、「この写真を持って入院していたのですね。」と涙ぐんでおられました。その患者さんにとっては、それこそ忘れられない人生の大切な時を写し取った一枚の写真だったのだろうと推察します。

写真を拝見したのは一瞬のことでしたが、あまりにも幸せそうなお二人の佇まいに大きな感動を貰い、今でもはっきりとその光景が目の前に浮かんで来ます。

何故そこまで心を打たれたのか、自分自身でも不思議で謎のままです。今にして思い返すと私が全く知り得なかったその方の人生の一コマを垣間見た瞬間に、今を生きている自分の人生とその写真の光景が重なり合い反射的に共鳴し、それが心の琴線に触れ、激しく揺さぶられたのではと想像しています。

老人医療においては、**患者さんと接する時にただ目の前の患者さんだけを診るのではなく、その方の生き様、人生に向き合いながら診る視点が必要**だと教えられた貴重な教訓となりました。

一瞥しただけの写真の映像が三十年余りを経て未だに脳裏に焼き付いている心の不思議です。

Nrs.による

ミニコラム

「寄り添う」とは…

パールランド病院　1病棟4階病棟主任　盛　美代子

「寄り添う看護・介護をしましょう」と医療の現場ではよく聞きます。また、その職場においての理念に掲げられていることも多いです。

「寄り添う」にはいろんな形があると思いますが、長年の看護師の経験から学んできた私がたどり着いた考えは「少し時間がかかってもその人の出来ることをじっと見守る」という姿勢。はじめから手助けするのではなく、見守りながらも危ないなと思ったら手を差し伸べる…。時間がかかってもその人が自分自身で出来ることが増えれば、それが自信となり、生きる事に喜びを感じられる人生に繋がっていくのではないかと思うのです。

でも現実はなかなか難しい…。一日の業務は、決まったスケジュールに加え、突発的な予期しないことも次々と起こるのが病院の日常です。そんな慌ただしい中では、ちゃんと寄り添うことができないことで、患者様の出来ることや可能性を潰してしまうこともあります。特に当院は高齢者の方が多く、一つ一つの行動に非常に時間がかかり、危ないのではと心配になってついつい先に手を貸してしまう…。これが結果的に患者様の出来ない状態を作ってしまい、車いすやベッドでの生活にさせてしまう可能性も大いにあるのです。だからこそ、尚更ここで「寄り添う」看護・介護が人間らしく生きるために重要になってくるんだと、長年、高齢者看護に携わってきた私は思うのです。**その人の出来ることを見守りながら待つ「寄り添う」、手を貸したい気持ちをぐっと堪え、その人の能力を奪ってしまうことにならないよう待つ「寄り添う」、この姿勢が一番の看護・介護につながるのではないか**と思っています。そしてこの基本的な寄り添い方は、病院、施設、自宅、どこであろうと同じ、変わらない看護の姿勢だと思います。

インドネシアからの新しい仲間を紹介します

令和5年4月より、インドネシアから8名の方が看護補助者として入職しました。
研修を交えながら、病棟での業務に励んでいます。生活面での戸惑いや、鹿児島弁にもまだ慣れない様子ですが、何事にも笑顔で一生懸命に取り組んでいます。当院では今回初めて外国人スタッフを迎えましたが、お互いの文化を尊重しながら、一緒に頑張っていきたいと考えております。

❶ 趣味　❷ 好きな食べ物　❸ 日本で行きたい場所 を聞いてみました

エガ　プスピタサリ
EGA PUSPITASARI
（エガ）

❶ 釣り
❷ 辛い・酸っぱい食べ物
❸ 東京ディズニーランド

エカ　ノヴィタ　レスタリ
EKA NOVITA LESTARI
（エカ）

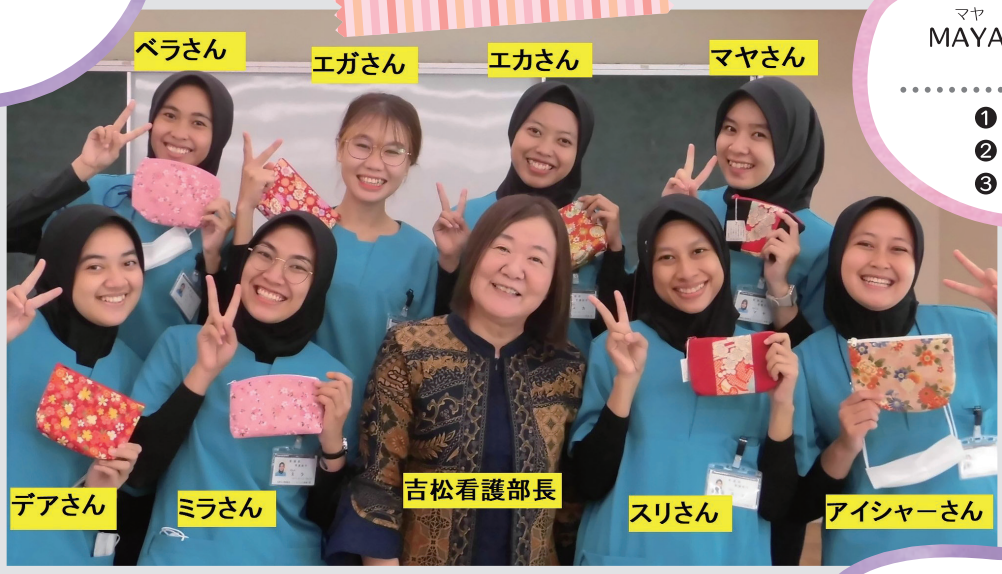
❶ ドラマ鑑賞、読書
❷ 甘い食べ物
❸ 京都

ベラ　サキタ
BELA SAKITA
（ベラ）

❶ 音楽鑑賞、ドラマ鑑賞
❷ 鶏肉、魚
❸ 札幌

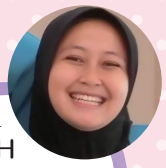
マヤ　グスティナ
MAYA GUSTINA
（マヤ）

❶ 旅行
❷ ラーメン
❸ 北海道



ショピラ　アル　マデア　メラニ
SHOPIRA AL MADHEA MELANI
（デア）

❶ 写真撮影
❷ 鶏肉、いちご、辛い食べ物
❸ 東京ディズニーランド



シティ　アイシャー
SITI AISYAH
（アイシャー）

❶ ジョギング
❷ 寿司、刺身
❸ 富士山

ザキア　ミラディア　チョイロ
ZAKIYA MILADYA CHOIROH
（ミラ）

❶ 読書
❷ 鶏肉、卵
❸ 札幌

スリ　アスリヤンティ
SRI ASRIYANTI
（スリ）

❶ 読書、ドラマ鑑賞、料理
❷ すいか、甘い食べ物
❸ 鹿児島水族館

リハビリテーション部・作業療法科のご紹介

作業療法とは…

食べること、お風呂に入ること、トイレにいくこと、着替えること、日々の仕事や趣味活動、家事など何気なく行っていることが、病気やけが、障害などで難しくなったときに、障害とも折り合いをつけながら、自分らしさを取り戻すための、こころとからだのリハビリテーションです。

〈当院の作業療法科の関与する施設基準・療法について〉

当院には7名の作業療法士（以下OT）と専任のリハビリテーション助手が1名います。認知症治療病棟（認知症治療病棟入院料1）が4病棟あり、専従OTが1名ずつ配置され、他3名のOTが精神科作業療法を行っています。また、リハ助手はそれら全体をサポートします。いずれも5～10年以上の認知症対応経験豊富な者ばかりです。うちOT1名は認知症ケア専門士の資格も取得しています。

認知症治療病棟

認知症の方に対し多職種で連携し、専門的な入院治療を行うための病棟です。病棟専従OTが一日の生活全体を「治療の場」と考え、週間スケジュールに基づいた規則正しい生活や、日常生活動作やその人に適した様々な活動を通じ、「その人らしい」生活が過ごせるように作業療法のプログラムを提供しています。

●個別訓練（身体機能訓練・ADL訓練・認知機能訓練ほか）

病棟内で生活に寄り添い訓練しています

●環境調整（車椅子・福祉機器・自助具・ポジショニング調整）

動きやすい姿勢で座れるように車椅子調整します

●趣味活動（ぬり絵・手工芸・学習・編み物ほか）

一人一人にあった個別活動を提供しています

●病棟レクレーション（体操・歌唱・踊りほか）

集団で心と体を動かし笑いが絶えません

精神科作業療法

当院では少人数でのグループ療法で「その人らしさ」を尊重しながら、様々な活動を通じて、時間・場所・体験を共有し、豊かに生きるための居場所・仲間作りができるような作業療法のプログラムを提供しています。また、各認知症治療病棟内で、病棟専従のOTと協力し治療の一環としてレクレーション療法を提供しています。

さくら会

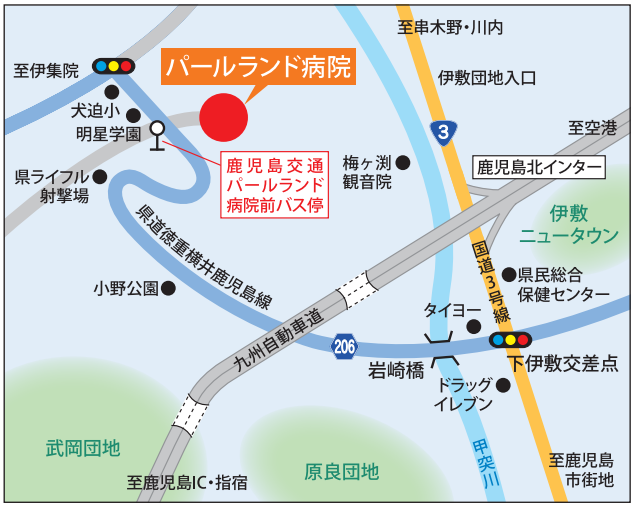
カラオケ

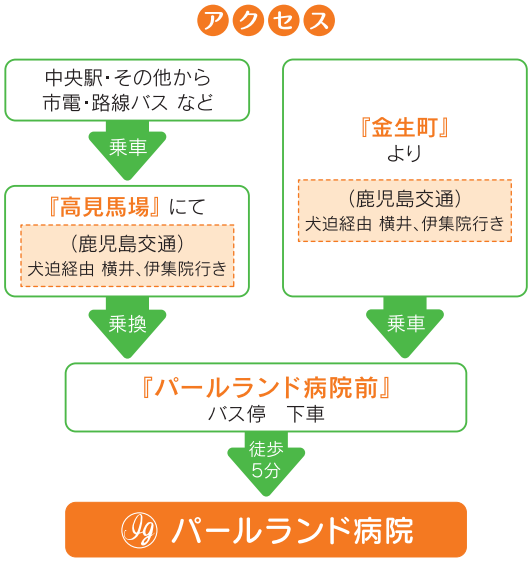
風船バレー

さゆり会

病院概要

病院名称	医療法人　猪鹿倉会　パールランド病院
所 在 地	〒891-1205　鹿児島市犬迫町2253番地　TEL(代)099-238-0301
開　　設	昭和63年3月1日
治療科目	内科　脳神経内科　精神科　リハビリテーション科　歯科 ● 臨床研修協力施設（厚生労働省発医政　第0331051号） ● 社団法人日本精神神経学会研修施設 ● 消化器がん検診精密検査医療機関証 ● 日本認知症学会教育施設認定証 ● 日本老年精神医学会専門医認定施設（認施　第200092号） ● 鹿児島県指定認知症疾患医療センター
病 床 数	400床　［医療型］療養病床100床　精神病床300床(認知症病床200床)
建築面積	延15,399㎡
関連施設	指定居宅介護支援事業所　訪問看護ステーション　訪問歯科





医療法人　猪　鹿　倉　会

パールランド病院

https://www.pearlland.or.jp

〒891-1205　鹿児島市犬迫町 2253 番地

電話／099-238-0301　FAX／099-238-0117

認知症疾患医療センター

電話・FAX／099-238-0168

指定居宅介護支援事業所パールランド　電話／238-0301　FAX／238-0117

訪問看護ステーションパールランド　電話／245-4555　FAX／245-4556

訪　問　歯　科　パ　ー　ル　ラ　ン　ド　電話／238-0301　FAX／238-0117